

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和5年12月23日（土） 13:00～14:30
場 所	毛呂山町立毛呂山小学校 A棟1階コミュニティルーム
参加者等	小学校保護者（毛呂山小学校） 11名
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 佐藤学校教育課指導主事 谷津田教育センター指導主事 市川教育総務課庶務係長 深井教育総務課庶務係主任
発 言 者	内 容
石田課長	<p>お時間になりましたので、ただいまから毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会を開始させていただきたいと思います。このたび、教育委員会では子どもたちにより良い学校の在り方についての再検討をし、学校教育における課題、今後の児童生徒数の推移、必要とされる教室数、既存校舎の維持管理、これらの教育的課題を解決するため最も望ましい施設形態とその時期を示す毛呂山町立小中学校編成計画（案）を策定いたしました。本日の説明会は、この編成計画（案）に関する説明会となっておりますので、どうぞよろしくお願いたします。本日の説明会ですが、人数の把握をするために事前に参加希望者を募り、確認をさせていただきました。また、急遽人数の関係から会場の方の変更をさせていただきまして、ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。さまざまなお協力をありがとうございます。それでは、本日の説明会のお時間ですけれども、約2時間前後の予定となっております。撮影及び録音につきましては、ご遠慮いただきますようお願いいたしますが、教育委員会として、こちらの内容の方を来られなかった方々などにお伝えしたいと思います。そのための、議事作成のための録音をさせていただきますのでご了承ください。こちら、例えば町ホームページにアップするときなどは個人の方の情報などに関しましてはわからないようにしっかりと対応してからの議事の公開というふうに考えておりますので、そのあたりのことはご安心していただきたいというふうに考えております。それでは、毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会を開催したいと存じます。</p> <p>最初に教育長より、ご挨拶をいただきます。</p>
高沢教育長	<p>改めまして、皆様こんにちは。本日は、毛呂山町立小中学校学校の編成計画（案）の説明会の方にご参加いただきましてありがとうございます。土曜日の午後ということで、貴重なお時間を拝借いたしました。ありがとうございます。日頃より、保護者の皆様、地域の皆様には本町6小中学校の教育活動にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。心</p>

より感謝申し上げます。小中学校は、昨日をもって2学期が終了いたしました。今日からですね冬休みに入るわけなんですけれども、年末年始慌ただしい中での地域での生活となります。どうぞ保護者の皆様にも見守りを是非よろしくお願ひしたいと思います。そんな中で昨日午後なんですけれども、西戸地区において火災が発生いたしました。真っ黒なモクモクとした煙でちょっと驚いてしまったんですけれども、人的な被害は無いようなんですけれども、年の暮れです。交通事故、それから火災も含めてですね様々な事故等について十分こちらで配慮していきたいと思ひます。

さて、教育委員会では少子高齢化や様々な社会現象の中で、子どもたちによりよい環境を提供するためにはどのような環境が望ましいのか、平成25年度より様々な機関で検討して参りました。町内各関係機関の皆様からですね2回ほど提言をいただきまして、それを基に平成30年度、教育委員会の考え方そして未来を拓く人づくり小中一貫プロジェクトをまとめさせていただきまして、毛呂山中学校区の3校、川角中学校区の3校それぞれの中学校区で、小中一貫教育を推進させていただいて、9年間を見通した教育活動の方を展開させていただいております。そのような中なんですけれども、小学校における35人学級の実施ですとか、あるいはコロナ禍による教育活動のちょっとした停滞があったんですけれども、それに対応するために、昨年度小中学校の学校のあり方検討委員会の方を設けさせていただきまして、委員の皆様から様々なご意見をいただきました。そのご意見をいただいた中で、今回この編成(案)を作成させていただいたわけでございます。教育の様々な環境整備として、施設設備の整備、それから教育課程の中身、またさらに人的な配置、これらを十分踏まえながら今後この計画を推進させていただきたいと思ひます。特に人的な環境としては、毛呂山町内の様々な団体さんですとか、あるいはご家族ご友人それから教職員、子どもたちの成長に合わせて関わってくる多くの皆さん、また施設等については、ご案内のとおり、学校施設・公共施設・学習環境また地域の様々な企業等を踏まえて十分活用していけるように、そのような構成要素の中で、さらに学校施設につきましては子どもたちの環境に適した内容を是非提供させていただきたい。特に、9年間を見通した教育課程の中では、様々な教育環境が要求されますが、もう既に行っている中で、今後さらにより良い環境ということでこの案をまとめさせていただきました。将来の毛呂山を担う子どもたちにとって望ましい施設計画ということで、それを十分考えさせていただいたということをお伝えさせていただければと思ひます。是非、この計画(案)について今日は説明をさせていただきますので、またご意見等いただきながら、ご感想等をいただきながら今後推進させていただければと思ひます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

石田課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の説明会に際し、職員等の紹介をさせていただきます。</p> <p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p> <p>以上、よろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>それでは、教育総務課道地副課長より説明をいたします。</p>
道地副課長	<p>改めまして、こんにちは。教育総務課の道地です。本日はよろしくお願いいたします。説明会に入る前に、お配りした資料の確認をさせていただければと思います。次第、資料、感想記入用紙になります。感想記入用紙におきましては、ご記入いただき、お帰りの時に受付のカゴの方に入れていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。今回の説明に関しましては、この資料を元に進めさせていただきますが、この資料白黒でございますので画面を見ていただいた方がわかりやすい部分がございますので、画面を見ていただければと思います。それでは私の方から小中学校の編成計画（案）について説明させていただきます。それでは、着座にて説明させていただきます。</p> <p>初めに実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のよりよい教育環境を整備するために、川角中学校区におきましては施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区におきましては施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。</p> <p>平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的に大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されております。手引きの中では「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える」とされており、学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしましては、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がってしまう、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児</p>

童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられ、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では学校単位でございしますが、9学級以上を確保することが望ましいという形となっております。

それでは、子どもたちの置かれている現況について詳しく見ていきたいと思えます。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある学校づくり」に関する参考資料でございますが、こちら生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加していきます。いわゆる少子高齢化です。赤枠でくくってある2060年は2010年生まれ、今の13歳、現在中2の生徒が50代の時になることを示しています。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になります。こちら青が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えているのがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。こちらは現在の状況になります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転しているのがわかると思えます。続きまして、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフになります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況でございます。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人という形になります。こちらは、児童のいる世帯の状況となっております。右側の白い部分が児童のいない世帯になってございしますが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っているのがわかると思えます。こちらは家族の中で、対人関係を形成する組み合わせを示したものでございます。2人家族ではもちろん1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなってきました。そのため、学校において多様な人間関係を経験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移となっております。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに

減少しており、今年令和5年度では1,801人となっており、ピーク時に比べると約34%まで減少しているということになっております。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推計となります。減少してきた児童生徒数は、今後も減少していくことが推測されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級となっております。令和11年度以降なんですけれども、光山小学校、泉野小学校の全ての学年で単学級となる見込みとなっております。続きまして、教員数についてでございますが、小学校で校長・教頭を両方含めて事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校はすでに1人となっております。泉野小学校はこちら令和9年度となっておりますが、令和7年度からですね、川角小学校においては令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。続きまして、小中学校施設の建築年度でございます。町の小中学校は6校ございますが、見ていただいているとおり全ての学校が建築後40年以上経過している状況でございます。こちらは、小中学校の改修の状況になります。この中で下の赤枠内の大規模改修ですが、学校の中で工事が済んでいるのが毛呂山中学校と川角中学校になります。毛呂山小学校は体育館の大規模改修が済んでいます。今後ですね、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して全て大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会を立ち上げまして、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3クラス以上が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、ここの通学40分以内というのは通学距離にするとおおむね3キロという形で提言をいただいております。続きまして、平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、先ほど教育長からも説明がございましたが、平成30年に未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになってございますので、後ほど資料の方で確認させていただければと思います。

小中一貫教育の導入の主な狙いがございます。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職

員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることで更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それではですね、令和3年度に小中一貫教育の取り組みがゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思います。

～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～

(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)

今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。

こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の校舎だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の時間でございます。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っていることを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っております。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じような授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間を分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の

更なる充実と、児童生徒のよりよい教育環境整備をするために先ほども一番最初に申し上げましたが、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。

それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地のため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができます。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。また、一体型・隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率よく学校との協働ができるものと考えられます。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等でございます。まず、川角中学校区でございます。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設し施設一体型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級でございます。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区でございます。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地でございます。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和1

1年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級でございます。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支援学級を2学級として8学級となっております。毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定となっております。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと。川角小学校と光山小学校については、川角小学校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革などは毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。続きまして、こちら川角中学校の敷地イメージでございます。画面のピンクのところになりますが、増築校舎は校舎の西側・プール横側のあたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保などを検討した結果でございます。また併せて学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保を維持します。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してのスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを、右下になるんですけども、お示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細が検討され決定されていきますが、まずは教育委員会で検討した結果でございます。続きまして、こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までの利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎での教育となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中学生との体格差などにより、ゾーニングなども考慮しての増築校舎の教室整備でございます。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を開始する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものになりますが、イメージとなっております。このような形で、多目的室を整備し、行っていきます。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。続きまして、こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生が一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校

の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室にすべての授業の用意が整っているので、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージでございませう。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備でございませうが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山小学校内の学童保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところとございませうが、お示しいたしてございませう。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、A棟（南側）のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の木質化を考えてございませう。毛呂山中学校校舎のイメージでございませう。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を活用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。今後のスケジュールでございませう。12月から1月にかけて編成計画（案）を説明し、ご理解いただけるように努めて参ります。1月から2月にかけてパブリックコメントを実施し、3月に計画の策定と考えてございませう。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。私からの説明は以上となります。ありがとうございました。

石田課長	<p>それではこれから質疑応答に移らせていただきたいと思います。挙手をいただければご指名いたしますので、お名前を名乗っていただいでご質問をお願いいたします。また、こちら担当の方からの回答でございますけれども、申し訳ございませんが着座にての回答ということでお許しをいただきたいと思います。お願いいたします。どなたかご質問などございますでしょうか。</p>
高沢教育長	<p>質問じゃなくても、確認の意味でとか、あるいは説明のところでもまだ十分にイメージが湧かない、ご理解いただけないというところあったら是非お願いしたいと思います。</p>
A	<p>Aと申します。この統合に向けた詳細事項等のところで通学部会、通学路、通学方法等に関することと書いてあるんですけども、これについては検討・決定していくということで書かれておりますが、これについてはR11年の開校から前倒ししてどれくらい前に決定というかそういう詳細が学校を通じてわかるのでしょうか。</p>
土屋課長	<p>学校教育課の方から答えさせていただきます。特に大きなところで通学路、スクールバスの関係がございます。スクールバスについては、今の原案としては、先ほどあったおおむね3kmのところを考えております。そういったところも含めて3kmでバス停がどうかというところもあるんですが、これは当然直前ではわからないと思いますので、少なくとも1年前にはお知らせするような形が必要かなとも考えております。通学路についてはですね、中学校の位置はどちらの中学校も残っているというかわりませんので、中学校の通学路は変わりません。毛呂山小学校については、今毛呂山小学校の児童については、毛呂山小学校に通ってきますので、大きな変更はないと考えております。ただ、泉野小学校の方の通学路、こちらはですね、この部会の中で検討していかなければいけませんので、そういったところも含めて一番遅くてもやはり1年前とかには決まっていなければいけない、むしろ2年前くらいには決まっていなないといけないと思います。最後の詰めということで、そのような形でスケジュールを考えております。</p>
A	<p>ありがとうございます。</p>
石田課長	<p>どうでしょうか。それでは、お願いいたします。</p>

B	<p>Bと申します。21ページの統合年度の毛呂山中学校区というところを見ますと毛呂山小学校の学級数・教員数が14・16、泉野小学校の学級数・教員数が8と9となっており、これが統合しますと学級数が17、教員数が19となっています。これは単純計算すると22になるかなと思うんですが、17になっているということは何か算出の仕方があると思うのですが、それをご説明いただけたらと思います。</p>
土屋課長	<p>私の方からお答えいたします。学校の教職員の算出の仕方は県の配当基準表というものがございまして。クラス数に応じて、先生の数が決まっていくことになっていますので、この今2つの学校なので、学校単位でそれは決まっているんですね。17学級に対しては19人というような決まりがございまして、単純に2つがくっついたから教員も合わせられるかと言ったらそういったことはできない。クラス数に準じて決まっているということになります。クラスの数については、14学級と8学級ではあるんですが、今小学校では35人で1クラスとなっていますので、極端な話、10人と10人のクラスがくっついても2クラスにならないですね。20人なので1クラスなんですね。こういった学年もありますので、その学年の人数を合わせて35で割ったクラス数になっていきます。変な話、先ほどの説明の中で4年生以上は3クラスになります。3クラスになるんですが、クラスの中の人数は25人前後です。逆に単学級の場合だと、1クラスしかないですけど、今の光山小学校ではあるんですが、1クラスなんですけど34人とか35人の1クラスなんですね。そういった先ほどの課題のところでもあったんですが、ちょっと余談にはなるんですけど、いわゆるクラスごとの切磋琢磨する状況とか、そういうところありますので、クラスが少ないから目が行き届くというところではまた違ってきて、この25人だとしても目が行き届くんですが、3クラスあるとクラスごとでいろんな切磋琢磨したりとかいろんな教育ができるというようなところもありますので、クラスの数というのはある程度の数があった方がいいというのは文科省の考えでもあります。以上です。</p>
石田課長	<p>お願いいたします。</p>
C	<p>主だったところで聞きたいことは、小中一貫教育とか小中一貫校というところですけども、小学校の卒業式とかっていうのは一緒になっちゃうのですか？</p>
土屋課長	<p>卒業式、あと入学式もあると思いますが、今回考えているのは小中一貫校でございまして。よくある義務教育学校というものもあるんですが、義務教</p>

	<p>育学校だとこれはもう1つの学校なんですね。小学校1年生から9年生と呼ばれる9年間で学年を編成している1つの学校になります。この義務教育学校ですと、小学校1年生で入学をして9年生で卒業になります。小学校の卒業式はなくなってしまいます。一貫校なので、小学校1年生から6年生、中学校1年生から3年生と連続しているだけであって、節目はありますので小学校で入学をして小学校6年生で小学校を卒業する、中学校に入学をして中学校を卒業するということで、それぞれの卒業式・入学式はございます。入学式については、私も保護者でちょうど子どもがですね、小学校と中学校の入学が重なりました。そういった場合に1箇所や近くであれば入学式についてはどっちも参加できるんじゃないかなと個人的には思っているところでもございます。以上です。</p>
C	<p>もう1点。毛呂山小学校の場合は、施設分離型で中学校に小学生が授業を受けに来る。これ、雨の日とかどの程度行き来ができるのか。</p>
土屋課長	<p>施設は隣接ということで、一体になっているものではございませんが、先ほど説明であった小中一貫教室で、今もですね一貫教室というところで6年生が授業に行ったりします。やはり、子どもたちの移動でこの距離であってもなかなか距離はありますので実際行った場合は1日そこで生活するようなことを考えています。なので、朝、中学校登校なんていう形で朝は中学校にもう登校してその教室で給食も食べて帰りの会もやってというような形で、いわゆる家庭科の授業であったり理科の授業だったりそういう時間割を組んでその日は1日過ごすような形になりますので、登校が中学校に行くようなカリキュラムを編成していければ、休み時間単位で行き来をするようなイメージではないような形で今想定しています。</p>
石田課長	<p>ありがとうございます。既に質問されたことに対する更なる疑問であるとか、または少しこれは違うかなと思ってもどんなご質問でも結構ですのでせっかくの機会ですから色々なご質問をお預かりしたいと思います。</p>
B	<p>中学校の方では教科センター方式を導入とあって、教室を見ますと数学・外国語室とあります。数学といわゆる英語を想定しているのかなと思うのですが、他の教科についても想定されているのかなと思うのですが、もし今の時点でお考えがあったらどんなことを考えているのでしょうか。</p>
土屋課長	<p>そうですね、今おっしゃるとおりで、今想定しているのは数学室・外国語室というところでは想定しております。先ほども見ていただいたように、児童生徒数はこれからも減って参ります。減ることによって、教室自体も</p>

	<p>普通のクラスの教室も空いてくるのが想定しております。その時に、そういったところでまた学校でこれから研究していくところはあるんですが、いわゆる国語であったり社会科であったりというところも想定には入れてあります。そういったように、いわゆる空いてしまう教室というか余裕教室を学力向上に特化して、どんどんどんどんこういった教科センター方式も今後取り入れていくというところで考えております。</p>
高沢教育長	<p>併せてちょっと補足させていただきます。今想定しているのは、外国語・英語とそれから算数・数学なんですね。実は小学校の方では今専科教育として音楽ですとかあるいは英語の方を学級担任、あるいは学級担任以外の先生が受け持っている教科があります。県の方でも、また国の方もなんですけども、今後小学校でも算数、理科、外国語それから体育、これには専科教員を配置して学習しましょうということで、その専門の先生を配置して授業を展開してくださいというプランを立てています。そのための先生方をプラス1ずつですとか、こう加配という形なんですけども、配当しますよというそういうアナウンスも来ています。小学校の先生ですと、担任の先生は自分のクラスの教科を受け持つ関係なんですけども、では担任以外あるいは担任の先生で理科に特化して授業を持ってくれる先生がいますかといっても、なかなかその専門性というのは自信がないのもあるんですけども、すぐ対応できるっていうのは現状ではないんですね。そこで中学校の理科教員あるいは中学校の英語の教員等々チームティーチング、2人の先生でこう教えるという、そういう技法等を用いながらやっていくことで小学校の先生の負担を軽減して、さらに専門的な学習が深まるようにということで、今もう小中学校で連携してやっている授業をさらにこのような特別教室を使って専門的にやっていけたらなということで、子どもたちの学習意欲の向上ですとかさらに学びたいという、そういう意欲を駆り立てて子どもたちのニーズに是非こちらの方も頑張っていきたいと思いますという狙いがございます。体育の専科については、例えばプール指導ですとか、あるいは専門的な球技ですとかそういうものも中学校の体育の教員、また教員もだんだんと高齢化していきますので十分体を動かして、子どもたちに範を示すというような授業展開もなかなか困難になっていきますので、中学校の教員をうまく活用していきながら専科教員も育成しながら専門的な教育を更に充実させていきたいと思いますという狙いの中で毛呂山町の方はこのような方策を採っていくところがございます。ご理解いただけたらと思います。よろしく申し上げます。</p>
A	<p>小中一貫教育で授業を一緒にやるということなんですけど、今先生方は働き方改革を進めていく必要があるということで、色々模索されているかと</p>

	<p>思うんですが、今現状毛呂山町にお勤めしていただいている先生方の働き方改革は進んでいるのかということと、一緒に中学校の先生が小学校の授業をフォローするということであると、またそこらへんで先生方の時間外労働が増えてしまったりという懸念はないのでしょうか。</p>
土屋課長	<p>そうですね、学校における働き方改革についてなんですが、これはいわゆる一番大きなところは先生方がいかに効率よく働くかだと考えております。効率よく働くことによって、残業時間ではないんですけどそういったものを削るといふところではあるんですが、仕事量を減らすというよりは上手く仕事をするってところがございます。いわゆる教材等をどう共有するかだと思うんですね。1人の先生が次の日の授業をやるのに、ゼロから作っていくのではなくて、すでに他の先生が使っているものを使えば上手に授業ができるというようなところもありますので、この小中一貫教育については、説明の中にもちょっとあったんですが、生徒への指導法であったり、そういった教材の共有であったり、こういうことが小と中も混ぜてやることができますので、より効率よく仕事ができるというようなところも考えてはいます。効率よくしたことによって、子どもと向き合う時間を増やすことが一番の趣旨であると捉えておりますので、変な言い方ではあるんですが、早く帰ればいいのかそういった問題ではなくて、やはり子どもと向き合う時間をどう確保するかというところであります。採点の業務であったりとか、こういったプリントを印刷するとか、テストのいろんなものを作るとか、掲示物を作るとかそういったことを作っていて子どもと触れ合えなかったら私は意味が無いと思っています。今毛呂山町教育委員会では教員業務支援員というような形で支援員の方に入っております。学校の方からはそういう方が印刷物をやったりとか掲示物を作ったりとかそういう対応もしていただいているおかげで子どもと向き合う時間は増えていますよということで現場からも声を聞いておりますので、そういった取り組みも入れながら、また小と中の先生が協力し合って進めることでより子どもたちに向き合う時間というのも増えていくのかなというところで進めておりますのでご理解いただければと思います。</p>
C	<p>スクールバスを利用できる生徒さんというのは、毛呂小学区でいうならばだいたいどの辺なのですか。大体でいいので。</p>
道地副課長	<p>今考えている毛呂山中学校区でいいますと、目白台1丁目・2丁目の児童の方をスクールバスという形になってございます。あと、今毛呂山小の児童さんは学童バスを走らせているところもあるんですけども、スクールバスと合わせて学童バスっていう形で全てがスクールバスじゃなくて、スク</p>

	<p>ールバスと学童バスの併用という形で考えてございます。スクールバスだけで言うと、目白台1丁目・2丁目を考えているという形になります。</p>
C	<p>例えば、中山間地域の阿諏訪とか滝ノ入の奥の方のお子さんっていうのは。</p>
道地副課長	<p>今まで通り学童バスという形。人数によってくると思うので、目白台1丁目・2丁目に関しましては、ある程度大人数の方がいらっしゃると思いますので中型のスクールバスを考えてますが、山間地域については今も学童バスですので、そのまま継続をして学童バスを考えているところです。</p>
C	<p>学童バスって朝出ないんでしたっけ。帰りだけでしたっけ。</p>
道地副課長	<p>現在は帰りだけなんですけども、今回の編成計画案ではスクールバスの方を行きも帰りもというふうな形で考えてますので、今後そういった形の学童バスについても行き帰りを考えていかなければいけないというふうには考えています。</p>
C	<p>そうなると、この要するに徒歩圏内の保護者さんのいわば一番懸念されるのが立哨当番とかそういった数とかが、今まで連携したところができなくなった場合ってその辺はどういうふうに、保護者の負担も当然子どもが減るとなると増えていくわけですけど考えてますか。</p>
土屋課長	<p>そうですね、立哨当番っていうところがいろいろ問題が出ているかなと思います。それは、PTAの会長会議等でも少し話題になってですね、PTAの中でも各学校で毎日立ってないところも実はあるというところでいろんなやり方を工夫して情報共有しておりました。なので、そういったやり方の工夫もありますし、このPTAの組織自体もどういった形にするのか、これはまたPTAの方でも話をしていく必要があると思うんですが、そのいわゆる9年間で1つの組織で考えていくのか、それも有りだと思います。そういった中で、どこまでどういったところを見ていくのかということもあります。もっと話をしていくと、今、朝練習が無くなっている状況でもあります。中学校では。そういったことを考えると、その登校については中学生が一緒にとかということも、今後朝練が無いのであれば、そういったことも考えられるのではないかなと個人的にも思っています。そういった状況で、小中一貫校でこうなっていった時には、中学生の先ほどの思いやりのところではないんですが、そういった教育も今後考えていく必要であると捉えていますので、そこは保護者の方とですねよく相談を</p>

D	<p>しながら学校の中でもどんな取り組みができるか、こういった状況が一番良いのかということで考えていきたいなと思っております。</p> <p>Dと申します。導入の主な狙いのところなんですけど、②番で小学校から中学校へのスムーズな移行により中1ギャップを解消して中学校段階での学習の躓きや不登校の解消を図ることなんですけど、実際に万が一ですけど、躓いたりとか不登校になった場合にはどこの機関が対応したりとか、その躓きに対してどういう対応をしていくのかということと、あとですね学童保育のことなんですけど、中学校のところに学童保育をつけると、川角中学校の方は学童保育を建設する、小学校の場合には今のB棟の方に作るということなんですけど、今実際に4つ分かれているんですけど、結局その4つが2つになってしまうということは、川角中学校に関してはもうそこに小学校があるので両方が入る。なので、かなりの人数になると思うので、今学童が4つになったのは人数が増えてきたので別々にしているということなんですけども、それだけの施設として建設してくれるのかということをお聞きしたいのですが。</p>
土屋課長	<p>私の方から中1ギャップのことについてお答えいたします。まず、学習の躓きというのはですね、やはり小学校から中学校に上がった時に躓きというよりは、通知表で言えば3段階のものが5段階になっていったりとか、今まで小学校で言う「よくできた」になっていたんですが、中学校だと数字で5・4・3・2・1と、「よくできた」が、5かもしれないし、4かもしれないし、3かもしれない。そういったところで、自分ではこうできると思っていたんだけど、思ったよりできていないのかなんていうところというのは実際にそういった悩みであったり、そういうものは実際にあります。学習の躓き等については、今もですね中学校教員の方でも中学校に上がった時、小学校の先生もそうなんですけど、補習をやっていったりとかですね、そういう形でも対応しております。そういったところは引き続きやっていくことになっていくと思います。その中で、やはり小と中の先生が一緒にいるということは情報共有もできますので、こういったところがこの子はちょっと苦手かなとか、是非サポートしてくださいなんていう情報交換もできますので、そういう形ではやってまいります。あと、不登校につきましてはこれは必ず中1でということではございません。いつ、どの学年でも不登校というのは何をきっかけでなるかというところはありますので、中1のいわゆる生活リズムが変わったりとか、そういったところの悩みによる不登校というのは、スムーズに接続するところである程度解消されていくというところではあります。不登校については、今も教育センターの方で、教育支援センターっていうのが中にありま</p>

	<p>して、そちらの通室等もしてですね、教育センターの職員が色々対応して いて学習を見るときもありますし、そうでなく人間関係づくりであったり とかそういうような話をしたりとか、そういうところで教育センターで対 応しておりますので、そちらの方は引き続き対応して参ります。</p>
石田課長	<p>それでは、続きまして学童につきましてお答えいたします。ご意見ありが とうございました。学童なんですけれども、川角の場合、学校内に、新し く整備したきっかけは、そちらの学童の1つの団体が大きくなったという ところ、こちらだと思うんですね。そちらは見直すきっかけであって、そ の学童をどちらに整備しようかというところで、まず児童の安全というこ とで校内、学校の校内学童ということでの整備に至ったというふうに理解 しております。そういった中で、現在それぞれの学校に近い場所であつた りとか、校内学童であつたりとかという形で学童が整備していく中で、こ こで毛呂山小学校の場合は今ある学童の方の中で賄えるというところで、 毛呂山小学校学童こちらの方を使わせていただきます。川角小学校の方 は、校内学童での安全というところでの新しい整備というふうになります のでご理解をいただきたいと思ひます。</p>
D	<p>人数は。</p>
石田課長	<p>人数は、学童の方も整備する時に、先ほどの35人学級ではないですが も基準の数字や人数がございませうので、そちらの人数の方はきちんと対応 できるようなものとさせていただきたいというふうに考えております。</p>
D	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>個人に関する情報が含まれるため削除</p>
A	<p>小中一貫になることによって、保護者ももちろん子どもも、とまどいや不 安があるかと思うんです。そういった中で、現在も確か月に1回、学校に ケアカウンセラー・カウンセラーさんが予約制であつたかと思うんですけ ども、そういったのもまた今後も開催というかしていただけるのかどう か、心に寄り添っていただけるのかっていうところをお聞きしたいと思ひ ます。</p>
土屋課長	<p>そうですね、スクールカウンセラーの方は県の方に申請をして派遣をお願 いしているものでございます。今後も引き続き毎年毎年スクールカウNSE</p>

	ラーの方の派遣申請等はしていきますので、配置の方に努めて参りますのでご安心ください。
A	お願いいたします。
高沢教育長	中学校の方にさわやか相談室がございまして、これは中学校は小学校2校の方のほぼカバーしてエリアもありますので、遠慮無く中学校の相談室の方に何か心配事があった時には相談してもらって結構です。それは学校長を通じて両小中学校の先生方にも普段からPRしてもらってるんですけど、もしかしたらまだ周知が足りないかもなんですけどね、ご活用していただいて十分結構です。私、川中にいたときは、よく両小学校、光山、川小の先生方あるいはご父兄からも相談を受けて、さわやか相談員の先生も勤務時間を限られた中だったんですけどオーバーしてとか、あるいはカウンセラーさんも隔週水曜日に来ていただいていたんですけども、フルに活用させてもらってましたので、是非使ってください。
A	ありがとうございます。
石田課長	お願いいたします。
B	ここじゃないかもしれないんですけど、使われなくなる施設になる3つの学校っていうのはその後どうなっていくのですか。もし今わかったらで。
石田課長	学校の利活用についてのご質問だというふうに思います。今、町の方では残った学校の方の利活用していく、当面利活用していくということで考えております。その具体的な利活用の方法の方はですね、今後開催していく開校準備委員会などを利用してしっかりと考えていきたいと思っております。
高沢教育長	すでにグラウンドですとか、小学校の社会体育でも活用していますし、避難所になっている施設もありますので、基本的には残す方向でこちらもお願いしていきます。
C	さっきの質問に併せてなんですけど、令和11年度から学校が、この案が通って泉野小の子がもう4月からボンと毛呂小に来ますよっていうのは当然のことだと思うんですけど、その間のあいだにそういう準備とか交流とか当然そこにいる子どもたちってすごく既存の子どもたちは非常に影響を受けると思うんですけど、そういうことの回数っていうのは増やしてたり

	とか交流の場をちゃんと設けてスムーズに移行することを考えていますか。
土屋課長	そうですね、毛呂小の子もそうですけど、泉野の子も入ってきたりとか1月26日ですかね、また毛呂中で授業を受けるような形で、保護者の方も参加いただけるような形でもやっております。小中一貫教室で授業を受けたりするような内容っていうのは、今からでもやっているようなことでもありますので、近くなればなるほど回数を増やして行って、移行がスムーズになるように回数を増やしていく予定ではあります。今、一番は時間割ですよ。こちらはまだ小学校と中学校でズレがかなり大きいところがありますので、こういったものはどんだん学校の中で擦り合わせて行って、時間割もより近いもの、ズレが無いようにして行ってより交流しやすいように年を追ってですね、どんだん充実させて行って回数も当然増やしていくような形で考えております。
C	子どもが小と中もわかるんですけど、小と小が要するに重なり合うわけじゃないですか。小学校同士の交流っていうのは考えていないんですか。
土屋課長	中学校で、泉野小と毛呂小の子でいっぺんに入るような、その日に入って一緒に授業を受けるようなことも考えておりますので。
F	多分ないかなと思うんですけども、将来一貫校になる段階の中で、もしかしたら今、泉野小学校に通っている親御さんが私毛呂山小の方がいいんだけどみたいな、そういうもし例えば平山地区だったりとかしたら、泉野より実は毛呂の方が近いんじゃないかみたいな方が、今学区が分かれていますけども、そういうふうな要望があった場合にはどのように対応されるのか。無いかもしれないですし、あるとも言えないんですけど、もしそういったことがあった場合にはどうなるのか考えておいたほうがいいのかなと思ひまして。何か今の時点で対応策がありましたら。
土屋課長	11年度以降ですか。
F	いや、じゃないです。11年度より前にですね。どうせ毛呂山小学校に通うんだから、だったら先に毛呂山小学校に行ってもいいんですかみたいなことがもしかしたら万が一とも言いきれないと思ひますので。
土屋課長	いわゆる指定校変更という制度になりますので、こちらの制度は今のまま残りますので、その制度に沿って対応をしていきます。原則はやはり決め

	<p>られている学区に通っていただく。その中でもいくつかの条件があって、そういった条件の中に該当する場合については指定校変更が可能となりますので、今言った理由は異なりますのでそういった対応となります。</p>
石田課長	<p>ありがとうございます。</p>
高沢教育長	<p>どこまでできるかわからないんですけども、今この毛呂山小学校の今皆さんがいるA棟の方なんですけども、こちらの方は大規模改修をさせていただきま。さっき画像にあったとおり木質化ですとか、あるいはもう少し教室のレイアウト等を考えてということでやっていきます。両中学校の方が大規模改造をして木質化も踏まえてやりまして、非常に明るい過ごしやすい快適な校舎になりました。それまでは生徒や教職員、またPTAの方も交えて校舎をいかに綺麗にして整備してっていう努力をしたんですけども、大規模改修のおかげで子どもたちも物を大切にしたり、それから木の温もりですとかそういう中で学習を効果的にすることができました。是非、そういうプランを持って、この校舎の方も改修をしていって子どもたちに快適な学習環境が提供できるように私たちも努力させていただきたいと思。11年開校に向けて施設整備の様々な条件整備については努力させていただきたいのと、それから学習の中身の方も充実させていくように今後も努力させていただきたいと思。よろしくお願。い。た。し。ま。す。</p>
B	<p>先ほど質問でもあったと思うんですけど、立哨当番の関係なんですけど、小中一貫でやるときには中学生の思いやりの心と一緒に登下校とかっていうのも考えていたと思うんですけど、実際私もやってきて、私が小学校の頃は半年に1回とか、1年に1回とかそんな感じで回ってきたんですけど、今1か月に1回とかで回ってきてしまうんですね。結構親の方の負担も大きいので、今回小中一貫でそういうことを考えていただいているということなので、できれば前倒しじゃないんですけど、そういうことも考えていただけたら。小中一貫で令和11年だけど、その前から少し始めていくとか少しそういうのもやっていただけたらと思うんですが。結構いろいろと大変なので、その辺も考えていただけたらと思うんですが。</p>
土屋課長	<p>そうですね、立哨当番、いわゆる旗当番と言われているものであるんですが、子どもの数が減れば当然保護者の数も減りますので、そうすると回数が回ってくるのも早くなるというところはわかっております。そういった中で一貫校をやるからではなくて、今すぐにでも対策は考えなきゃいけない課題ではあると考えておりますので、そういったところは先ほどもお話</p>

	<p>させていただいたんですが、学校も交えてどういうふうにするのか、安全確保っていうことは尽きないと思うんですよ。ここも危険だ、ここも危険だってなってしまうとどんどん増えてしまう。そこを本当に、本当について言うのも変なんですけど、優先順位をつけるとか、地域によっては、ながら見守りとかっていう感じで散歩しながらとかそういう見守り活動をやっていたりとか、自分の家の前だけある程度の時間の情報を与えることによって、その目の前を見てもらうとかそういうやり方もありますので、正直言うと人数の多かった方法をずっと続けるというのは厳しいと思います。そうした場合には、方法を変えるというようなことも1つだと思いますので、これは学校での安全指導ではないんですが、安全担当の先生もいます。見守りのスクールガードの関係で、スクールガード養成講座というところで毛呂・越生でお話をしている場面もあります。スクールガードリーダーさん等にも来ていただいていますので、そういった場面でも少し課題として挙げながら、どういった方法がいいのかというところで、方法も考えるような形で検討していきたいなと思いますので、是非進めなければならぬとは思っておりますのでまたご意見いただければと思います。</p>
B	<p>防犯パトロールをやっている方とか、シルバー人材等もありますので、朝早いですけど、うまく活用していただいて。</p>
土屋課長	<p>それこそ泉野小学校あたりは、下校の見守りの方が人数が多いんですね。よく見守っていただいていますので、そういったことも1つになることで、人材の確保じゃないですけど、より多くまたこれでなるのかなと思っていますので、そういったところも含めて考えていければと思いますので。</p>
石田課長	<p>そろそろ説明会を始めて1時間半ほど経ちましたけども、ご意見の方をたくさんいただきました。ありがとうございます。まだご意見の方があるようでしたらお預かりしたいと思えますし。</p>
F	<p>よろしいですか。そしたら、今回川角中学校は一体型、毛呂山中学校は隣接型になったんですけど、そうすると2つ違っちゃう体系になるので、ちょっとそれぞれの比較のメリット・デメリットみたいなのが出てくると思うんですね。一体型のメリット・デメリット、隣接型のメリット・デメリットっていうのがあって、隣接型だったら今回毛呂山中学校区ですので、隣接型のメリット・デメリットみたいところで多分今後の説明で保護者が求めてくる場所かなと思って、今のところでお話できることがあればお伺いしたいなと思えました。</p>

土屋課長	<p>一体型と隣接型につきましては、教育効果的にはほとんど差がないと捉えております。一体型のメリットは一体、1つの中に入っていますので自然と交流することができるというところはあるんですが、近ければカリキュラムの組み方によって全く同じようなことはできますので、カリキュラムをどう組むかにかかってくると思うんですが、当然そちらは考えていきますので、ほとんど差がないようなところになっています。あとは隣接型の最大のメリットはグラウンド等が広く使える。施設も体育館も2つあったりと、そういったメリットはすごくあるなと思っていますので、そういったところはフル活用していく。川角中学校については、グラウンドは毛呂山中のグラウンドより全然広いんですね。武道場も毛呂山中の武道場より広いんですね。なので、小体育館のようなイメージでも使えますし、中校地じゃないですけど、あそこのスペースも結構ありますので、そこで小学校低学年の活動なんかもやろうと思えば全然できますし、そういう意味では2つのグラウンドほど広くはないですけど、それなりの活動はしっかりとできるということで今回の一体型と隣接型ほぼ同じような形でできるなとらえております。</p>
F	<p>ありがとうございます。</p>
石田課長	<p>それではたくさんのご意見をありがとうございました。皆様のご意見の中から、ここで学校編成をすることによって、いろいろなことを見直して、今までとすっかり同じことを続けていくというところの見直しも含めて教育環境の方を整えていかなければというふうに思います。また、今すぐに取り組んだほうがよろしいというような部分もありますので、しっかりとそのあたりは対応をして保護者の方々が安心して子どもたちをお預けできるような環境を整えていきたいと思います。ありがとうございました。それでは、こちらですね感想の方をご記入していただきまして帰りの際ご提出していただけたらありがたいと思いますのでご協力をお願いします。</p> <p>教育長の方から総括の方をお願いいたします。</p>
高沢教育長	<p>貴重なご意見をありがとうございました。十分な説明が皆様にご理解をいただけたかまだまだ不安な点はございますが、また機会がありましたらご意見を私たちの方にお寄せいただけたらありがたいかと思っております。今日いただいたご意見の中で、やはり地域の特性を考えて様々な課題をこちらの方も1つ1つ丁寧に対応していかなくちゃいけないのかなということも感じました。特に連携については、慎重にそれから丁寧に、そして子どもたち</p>

石田課長	<p>をまず第一に考えてやっていきたいと思います。今後も保護者の皆様のご意見等をいただきながら進めてまいりたいと思います。本日は貴重な時間、私も大変ありがたく思いました。なお感想をご記入いただいております。どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、以上をもちまして、毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）に関する説明会を終了といたします。</p>
------	---